

満洲電信電話株式会社編

全2巻「昭和14年版・昭和15年版」

満洲放送年鑑

植民地放送に関する唯一の年鑑。植民地で最初の「満洲」放送は、満洲事変後、軍事宣伝放送として国防・国策的性格が強いが、同時に「満洲国」の文化、社会生活に広く寄与した。年鑑には台湾、朝鮮、中国占領地等の放送も収録。植民地のメディア史、文化史の基礎資料。

北山節郎＝解説(第1巻に収録)

日本植民地文化運動資料 10



復刻版『満洲放送年鑑』刊行の辞

満洲関係の放送資料は、敗戦引揚時の持物制限等によって殆んど持ち帰ることはできなかった。また敗戦時の焼却や米軍、ソ連と中国の接収によって残された資料も乏しい。その中で『満洲放送年鑑』は満洲における放送事業の概要を知る貴重な資料である。日本植民地の最初の放送は一九二五(大一一四)年、関東州大連の実験放送であった。日本国内でのラヂオ放送の開始も同じ年であったから、日本植民地放送史は日本放送史と表裏の関係にある。満洲に続いて朝鮮、台湾で放送が始まる。植民地の放送年鑑は本書が唯一である。満洲の放送が記述の中心をなすが、隣接地域の朝鮮、台湾、中国占領地、それに日本国内、ソ連の放送事業にも紙面を多く割いており、日本の植民地放送年鑑としての側面も合わせもっている。満洲放送は満洲事変後、軍事宣伝放送として国策遂行のためのメディアとしての性格をもつが、同時に満洲の日本人、中国人等の社会生活、文化に寄与した面も忘れてはならない。放送文化の拡大によって、ニュース、演芸娯楽、音楽、教育、教養等多方面で大きな役割を果たすようになる。これは朝鮮や台湾でも同じである。戦局が拡大するにつれて植民地、占領地での皇民化推進の重要な機関にもなっていく。本年鑑は殆んどふれられてこなかった植民地メディア史、植民地文化資料の基礎資料である。さらに満洲放送史研究の手引として、解説、年表等を付した。

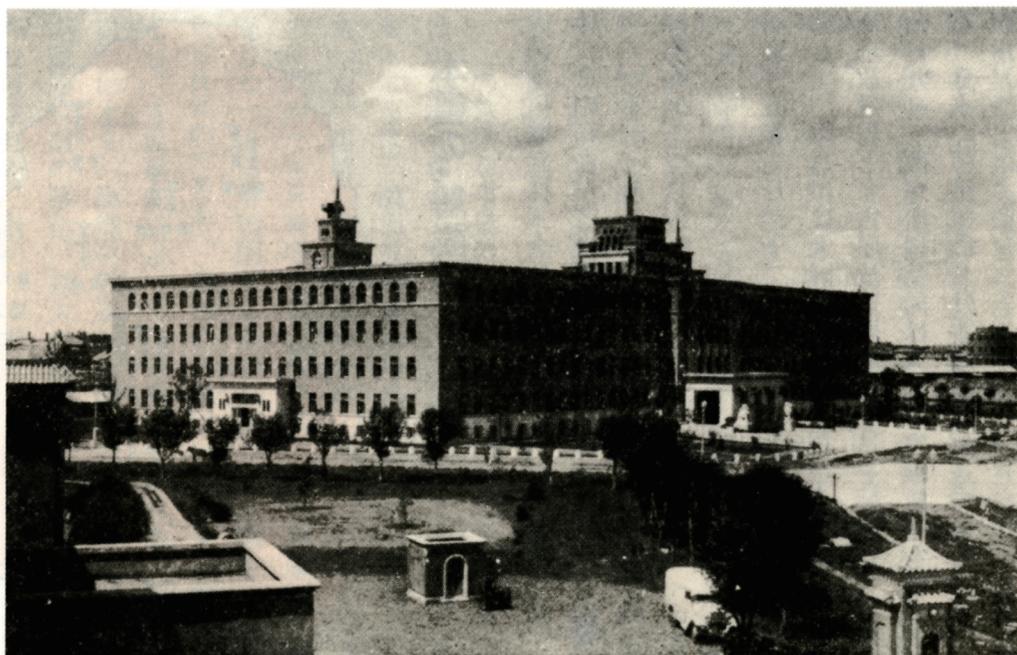
一九九七年五月

された二冊の『満洲放送年鑑』は の放送が果たした「国策的役割」を 言う！

「日本植民地文化運動資料」関係年譜

- 明治39年 南満洲鉄道株式会社創立
- 明治40年 満鉄調査部に図書室設置(後の大連図書館)
- 明治43年 韓国併合
- 大正3年 奉天、長春など八ヶ所に図書館閲覧場設置
- 大正5年 第一次世界大戦勃発
- 大正7年 南満洲司書会成立、『南満洲司書会雑誌』創刊
- 大正7年 大連図書館創立
- 大正8年 朝鮮三一運動
- 大正9年 奉天簡易図書館を本社直営とし、奉天図書館に改称
- 大正11年 衛藤利夫、奉天図書館長に就任
- 大正12年 哈爾濱図書館設立
- 朝鮮總督府図書館創立
- 大正14年 『書香』創刊
- 大正15年 『朝鮮時論』創刊→昭和2年張作霖爆殺
- 昭和3年 満鉄図書館業務研究会開始
- 昭和4年 『書香』復刊→19年休刊
- 昭和6年 満洲事変
- 上海自然科学研究所設立
- 昭和7年 満洲国建国
- 満洲国協和会(のち「満洲帝国協和会」)設立
- 昭和10年 朝鮮總督府図書館報『文献報国』創刊→19年廃刊
- 昭和11年 奉天図書館『収書月報』創刊→18年休刊
- 昭和12年 『中国文化情報』創刊→16年終刊
- 日中戦争始まる(7月)
- 満鉄附属地の行政権を満洲国に移譲
- 『図書館新報』第二次創刊、17号より『満洲読書新報』と改題
- 昭和13年 国民精神總動員朝鮮聯盟創設
- 昭和14年 大調査部体制となる
- 『協和運動』創刊→20年終刊
- 『北窓』創刊→19年休刊
- 『総動員』創刊→15年11月(第2巻第11号)より『国民総力』と改題され20年終刊
- 満洲国図書館協会発足
- 昭和16年 満鉄調査部事件
- 昭和17年 日本敗戦
- 昭和20年

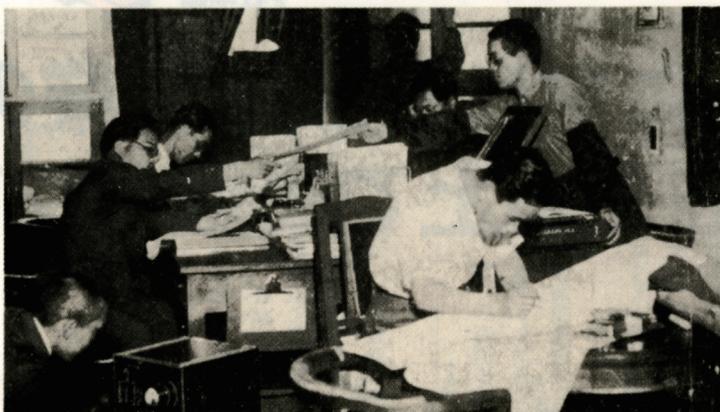
満洲電信電話株式会社の
本社全景（昭和14年頃）



本パンフレットに使用した写真は
すべて『満洲放送年鑑』所収のもの

今日残 満洲証

ノモンハン事変当時の
海拉爾放送局の活躍（昭和14年7月）



秋季受信機大売出の抽選
……於本社（昭和15年1月）



奉天漢語放送開始
——加藤局長のスイッチ入式（昭和13年10月）

發刊の言葉

一九三三年九月一日、日滿合併の滿洲電信電話株式会社が營業を開始した。同社は「滿洲国」と関東州の電氣通信事業運営にあつた。同社は関東州通信局から大連、「滿洲国」交通部から奉天、新京、哈爾濱の各放送局を引き継いだ。

一九三七年七月、日中戦争が勃発した。戦争は放送事業を「發展」させる。ニュースが拡充され、夜間の放送時間が延長され、大連から海外向けの短波放送が開始された。一九三八年には聴取契約が一〇万を、翌年末には、二十二万を越えた。「内地人」が一二二、五六〇人に対し、「滿洲人」が九六、四八八人と急激に増えた。

この急激な事業の膨張期に『滿洲放送年鑑』第一号が企画された。「發刊の言葉」によれば、その意図するところは「滿洲放送事業の里程碑」とすることであつた。当時「世界のラヂオは、第一次世界大戦後の一時的な世界秩序の安定期の後、再び動亂へと暴進しつゝある各国国家主義の高揚に、年若くして動員されたのである」。滿洲の放送は「滿洲事変を契機とし、支那事変によつて推し進められた」。「非常時局」により、滿洲の放送は「国家的立場の宣明てふ国策的役割の強化、拡大の線上にある」。こうして、今日残された二冊の『滿洲放送年鑑』は、滿洲の放送が果たした「国策的役割」を証言する。

ラヂオは變轉する社會の諸關係を電波の中に適確に反映する。即ち、電波に盛られた社會價値である。世界のラヂオは、第一次世界大戦後の一時的な世界秩序の安定期の後、再び動亂へと暴進しつゝある各國國家主義の昂揚に、年若くして動員されたのである。今日の滿洲ラヂオは、滿洲事變を契機とし、支那事變に依つて押進められた一つの新しい段階に立つてゐる。即ち、所謂「非常時局」が滿洲のラヂオに附與し、要請した全體性的主張と、國家的立場の宣明てふ國策的役割の強化、拡大の線上に在る。換言すれば、單純な私的享有を止揚し、公的存在へと發展した滿洲ラヂオの質的轉換なのである。夫は施設の擴充があり、聴取者が増加したといふことのみではなく、日々吾々の聽く放送プログラム内容の一新が良く之を物語つてゐるのである。

斯る放送に對する國家的統制は、獨り滿洲のみならず、世界的動向として、今後共、愈々益々強化の一途を辿るのであらう。世界ラヂオ界の現狀に於ては、放送局の増設、電力の増大、周波數帯の獲得に寧日なく、唯一の空間を争つて、國家宣傳の見えざる戦をたたかひつゝある。

斯くして、當然に、無線放送は周波數帯の不足に基く空間の混亂を惹起し、全放送波長帯に亘つて、相互の周波數は最小限度に迄近接し、遂に同一周波數への逃避に迄立至つてゐる。加ふるに大電力に依る國外宣傳放送乃至妨害電波の侵入、電波を利用する航空術の研究等々は共に無線放送の立場を愈々複雑にし、有線放送の問題も慎重討議の對象として登場したのである。

更に戦時下物資の統制は各種放送用、聴取用資材の不足となつて現れ、之に對處すべく、受信機界ではトランスレス受信機の製作等が進捗しつゝある。

ラヂオに新しい任務を附與し、大衆をしてラヂオの機能を再認識せしめた時局は、他面に於て無線放送に對して幾多の危惧を胚胎せしめた。滿洲ラヂオの將來は多幸であり、多難である。

本年鑑は、かうした意味で滿洲放送事業の里程碑である。昭和十三年を中心として、概括的ではあるが、多少沿革に遡つて見た。今日の放送を結果したものは昨日の放送に他ならないからである。そして今日の放送を構成する諸要素の發展が明日の放送を規定するといふ意味で、一通り今日の滿洲放送に關する諸般の資料を整理編輯して見たのであるが、尙ほ意に滿たざる點が多く、單に示唆を與へるに留まつてゐる。抱負は漸次之を實現に移すが、讀者諸氏の叱正を期待する次第である。

植民地満洲の学術・出版の実相を克明に記録、昭和激動期の文化状況を伝える綜合書評誌／

1 書香

本誌の内容は、大連を含め各満鉄図書館の活動の記録、満洲の出版界の動向、北アジア大陸の諸文化、関東東の動向に関連した情報、各種の文献目録等多岐にわたる。満鉄図書館史はもとより、満洲史、中国史、軍閥係史、アジア史研究にとって資料の宝庫。

全8巻・別冊1／満鉄大連図書館編
大正14年4月／昭和19年12月 全153冊
解題 稲村徹元 本体価格140,000円

満洲文芸、北方文化に関する貴重な記事・作品、文献・資料の紹介に努めた綜合文化誌／

2 北窓

満洲学芸史研究上、重要な意味を持つ本誌は、満鉄傘下の一図書館報の枠を超え、在満邦人の知的要求に応えた高級でモダンな綜合文化雑誌であった。その内容は歴史・民俗・芸術・教育・出版・書評など、満洲における文化事業の全般に広く及ぶ。

全5巻・別冊1／満鉄哈爾濱図書館編
昭和14年5月／昭和19年3月 全26冊
解題 西原和海 本体価格80,000円

満洲史、清朝史、対露交渉史など質の高い研究論文を多数所収。東北アジア史研究に必須／

3 収書月報

本誌の特色と内容は、何よりも館長藤利夫の個性と情熱によって収集された満蒙・シベリア等辺境研究図書に表われている。質量ともに充実したこれら資料を駆使した多数の研究論文や書籍・雑誌解題や紹介は、東北アジア史研究に必須の基礎資料。

全8巻・別冊1／満鉄奉天図書館編
昭和11年2月／昭和18年9月 全91冊
解題 小黒浩司 本体価格132,000円

満洲文化の向上を企図して刊行した唯一の読書雑誌／

4 満洲讀書新報

本誌は満洲における読書文化の発展に貢献することを使命とし、満洲の文化人に発刊・寄稿の場を広く提供した。その紙面は満洲の出版界、読書界、図書館界の動向はもとより、随筆、書評、書誌、書論、古本趣味、図書紹介等極めて多彩で、興味は尽きない。

全2巻・別冊1／満洲讀書同好会編
昭和11年1月／昭和20年4月 全95冊
解題 西原和海 本体価格40,000円

日本植民地最大にして戦前では日本最大の図書館報。待望の完全復刻版／

5 文獻報國

本誌は、日本植民地最大の社会教育施設の機関誌として、また文献保存及び重要社会政策であった民衆の教化・皇民化を目的として大きな役割を担った。その紙面からは随所に植民地政策が読みとれる。「侵略と文化」を考える上で欠かせない原資料である。

全12巻・別冊1／朝鮮總督府図書館編
昭和10年10月／昭和19年12月 全107冊
解題 藤田豊 本体価格240,000円

日中戦争期の中国研究に欠けていた学術・文化史的側面の資料を埋める貴重な記録／

6 中國文化情報

本誌は日中戦争下の日本の对中国文化活動の状況、蒋介石重慶政権下・日本の傀儡政権下の教育動向、社会科学の動向や中国文壇の動向を知る貴重な資料を収録。近現代中国の教育史、科学史、日中関係史、植民地研究に不可欠の学術情報誌。

全6巻・別冊1／上海自然科学研究所編
昭和12年2月／昭和16年12月 全31冊
解題 阿部洋 本体価格108,000円

日本帝国主義による「満洲国」支配の実態と「協和会」の全容解明に久しく待れた第一級史料／

7 協和運動

協和会の活動は「満洲国の国策に沿って、民衆の思想教化を中心に、経済をも含めたあらゆる分野で展開された。そしてこのような協和会の全貌を余すことなく反映しているのが、「協和運動」である。本誌により、戦時体制下の「満洲国」をつぶさに見ることが出来る。

全20巻・別冊1／満洲国協和会編
昭和14年6月／昭和20年4月 全68冊
解題 風間秀人 本体価格400,000円

朝鮮における皇民化・内鮮一体を促進し、總督府の文化統治政策を担った聯盟の機関誌／

8 總動員

本誌は聯盟員相互の意思疎通を図り、教化運動の徹底を期すために刊行された機関誌。戦時下の朝鮮における皇民化政策の具体的施策と実態を知る基本資料。また、日本の戦時動員政策の全体像の解明にも必須の文献である。

全4巻・別冊1／国民精神總動員朝鮮聯盟編
昭和14年6月／昭和15年12月 全19冊
解題 宮田節子 本体価格72,000円

内鮮一体の融和を標榜する一九二〇年代の朝鮮統治に批判的な論陣を張った極めて稀な雑誌／

9 朝鮮時論

本誌は植民地下の厳しい検閲体制の中で、発行を許可された朝鮮語紙誌の記事の翻訳や独自取材のルポなどを通して、植民地下での矛盾にあぐら朝鮮人の生の声を傾け、蔑視観・優越観の克服を目指した。一九二〇年代の日本植民地研究、在朝日本人史研究に必須。

全2巻・別冊1／朝鮮時論社編
昭和15年6月／昭和2年9月 全10冊
解題 高柳俊男 本体価格38,000円

日本植民地文化運動資料 10

満洲電信電話株式会社編

満洲放送年鑑

全2巻

第1巻 昭和14年『満洲放送年鑑』
第2巻 昭和15年『満洲放送年鑑』

◆本年鑑は、統計表・図版を約200点、写真を約900点収録！

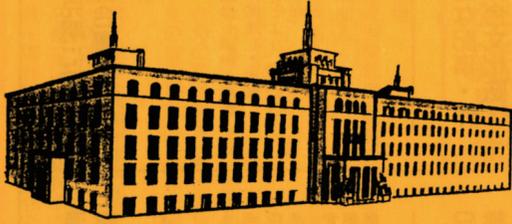
北山節郎 解説(第1巻に所収)

A5判・上製クロス装・ケース入・約732頁
本体36,000円

ISBN4-89774-018-5 C3002 ¥36000E

昭和五十年・庚辰七年

満洲放送年鑑



緑蔭書房

東京都板橋区板橋 1-13-1

☎03(3579)5444

※表示価格は税別です

関連図書のご案内

北山節郎編 8月刊

太平洋戦争放送宣伝資料

戦時期の放送は国家の宣伝機関であった。内閣情報局が対敵電波戦を指導し、最初は大東亜戦争目的の正当性と「大東亜建設」の真義を欧米・アジア各地に伝えた。本資料集所収の『海外放送講演集』『対敵電波戦』は対外伝戦の中心をなす「講演放送」の全貌を明らかにする貴重な資料。戦時メディア史、日本の大東亜戦争観を示す一次資料。

◆本書の構成

- 第1巻 部外秘 『海外放送講演集』 第二号 昭和17年6月
 - 第2巻 部外秘 『海外放送講演集』 第三号 昭和17年9月
 - 第3巻 部外秘 『海外放送講演集』 第四号 昭和17年12月
 - 第4巻 秘 『対敵電波戦』 第一号 昭和16年12月 / 17年11月
- 全4巻 / 本体予価94,000円

北山節郎編

太平洋戦争メディア資料

Ⅰ開戦―真珠湾攻撃と対外報道 Ⅱ終戦と対外報道
開戦時と終戦時の日本側の対外報道とそれを傍受した米等国等の膨大な記録を中心に日米のメディア資料を収集・整理し、従米の研究の検証と再検討を加えたものである。真珠湾攻撃、原爆報道、ポツダム宣言関係、終戦報道等の資料を収録。戦時メディア史、日米情報戦史研究の根本資料である。

全2巻 / 本体価格88,000円

外村大解説

戦時下在日朝鮮人新聞資料

東亜新聞 全二四号(昭和14年7月15日、昭和18年3月5日)

戦前期の在日朝鮮人史研究の基本資料の多くは官庁資料で、在日朝鮮人新聞・雑誌も現存は限られる。戦前最大の在日朝鮮人紙「東亜新聞」も例外ではないが、「朝鮮人皇民化政策を推進した「親日派」の動向の他、朝鮮での皇民化運動を知る上でも貴重な資料を提供している。

全2巻・記事目録付 / 本体価格75,000円

特約店